

宮川水辺空間再生基本構想について

Basic Plan for the Rejuvenation of the Miya River Waterfront

研究第三部 主任研究員 大塚 正

研究第三部 次 長 石川 高史

宮川は、岐阜県高山市の中心部を流れ、古い町並みが残る川沿いでは、昔ながらの朝市や高山祭りなどの行事や文化が引き継がれ、毎年200万人以上の観光客が訪れる。その景観は、日本人の原風景でもある。しかし、近年の不況とも重なり、観光客の伸びが衰えており、水を軸としたまちづくりにむけ、まちの再生が必要となった。

このため、市民団体の提案を機に、学識経験者や市民活動団体や行政機関等の代表者により、検討委員会を組織し検討を始め、“山都の歴史と文化を支える清流宮川の保全と再生”をテーマに、高山市街地を中心とした「宮川水辺空間再生基本構想」を策定したものである。高山市は、町並みの保存や屋台による高山祭りが市民の手で守られるなど、日本でも一番早い時期に町並み保存運動があり、市民活動が盛んなところでもある。

策定にあたり、市民の代表者の意見を反映させ、宮川の望ましい姿を共有認識となるようわかりやすく示した。現在、市民活動として今後のまちづくりを進めるため、委員の有志が中心となって市民組織を立ち上げようとしており、今後整備の行動計画の具体化が期待されるとともに、河川整備計画の策定に際し、市民と議論する上で、本基本構想の基本理念が反映されることが期待される。

キーワード：飛騨高山、水辺再生、親水性、歴史・文化、観光、市民活動、まちづくり

The Miya River flows through the center of Takayama City, Gifu Prefecture, in central Japan, and along the banks of the river where there still remain old stores and houses, events and cultural activities such as morning fairs and the Takayama Festivals that date back to the old days continue to take place, with more than two million tourists visiting the city every year. The landscape is at the same time the landscape of the Japanese people itself. But with along with the recession of recent years, the growth in tourists has declined, and so rejuvenation of the city, directed towards city planning with water as its axis, has become necessary.

For this reason, seizing the opportunity offered by proposals from civic groups, a study committee comprised of people of learning and experience plus representatives of organizations such as civic activities groups and administrative agencies was formed and studies were commenced; and a "Basic Plan for the Rejuvenation of the Miya River Waterfront" was drawn up centered around urban Takayama was put together under the theme of "Conservation, Rejuvenation of the Clear Waters of the Miya River that Support the History and Culture of the City in the Mountains." Takayama City has had a movement, perhaps the earliest in Japan, for the preservation of old stores and houses or the Takayama Festival featuring street stalls, and is a place where civic activities have always been carried out in an energetic manner.

The basic plan was drawn up reflecting the views of representatives of the citizens, and the desirable form of the Miya River was presented in a readily understandable manner so as to make it a commonly shared perception. At the present, in order to carry out future city planning as a civic activity, volunteers of the committee are serving as a core group to launch a civic organization, and so along with much expectations being directed towards realization of the action plans for the improvement works in the future, in the drawing up and establishing of river improvement works plans, it is hoped that the basic philosophy of the basic plan referred to above will be reflected in the discussions with the citizens.

Keywords: Hida Takayama, Waterfront Rejuvenation, Hydrophilicity, History and Culture, Tourism, Civic Activities, City-Planning

1. はじめに

岐阜県高山市は飛騨地方の中核都市であるとともに、日本を代表する伝統的な観光地である。近年、観光開発や市街地開発が進められ、自然環境の保全、良好な水辺環境の形成、消火用水の確保等水に係わる様々な問題が顕在化している。

「宮川水辺空間再生基本構想」は、市民団体の提案がきっかけとなって検討が始まった。その提案は、市の中心部を流下する宮川を軸に、バランスのとれた水循環を基調とするまちづくりである。河川管理者である岐阜県高山建設事務所では、市民の意見を本格的に取り入れた初めての試みでもあった。平成12年3月以降4回の委員会を開催し、市民の代表からは、宮川再生のみならず高山市の再生の向けて熱心に議論がなされた。本構想は、それらの意見を反映させ、高山の水辺空間の特性と多様な機能を活かし、身近な環境空間を保全・創出するとともに、市民と共有認識となる宮川の望ましい姿を示すことを目的とし、基本構想をとりまとめたものである。

2. 宮川と高山市の現状

2-1 高山市の概要

高山市は、岐阜県北部で唯一の市政を施行し、人口約66,000人で、飛騨地域の政治・経済・文化活動の中核都市である。海拔573mで内陸型の盆地気候のため、寒暖の差が大きく、冬期には降雪が多い。

高山の町は天正年間の金森長近公の時代に、商業経済を重視した城下町として形成された。

昭和45年の「ディスカバージャパン」キャンペーンにより一躍「飛騨高山」が全国的に有名となり、国内外から多数の観光客が訪れている。しかし、観光客は50年頃急速に増加したが、それ以降は、近年の不況と重なり伸び悩んでいる。観光が高山市の活性化に重要な役割を担っている。

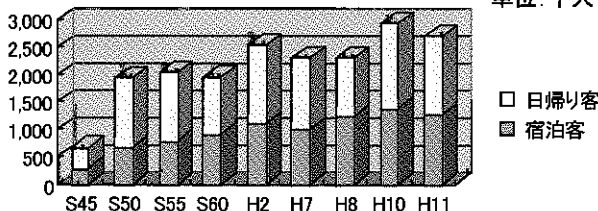


図 観光客入込み客数 (出典：観光統計)

観光地は、比較的新しく作られた匠の森、飛騨の里など郊外にも点在するが、重要伝統的建造物群保存地区に指定されている古い町並み、高山陣屋、朝市などは、市の中心部を流れる宮川周辺の旧市街地に集中し

ている。

静かなたたずまいをみせる古い町並みや市街地内外の豊富な緑、宮川をはじめとする美しいせせらぎ、誰でも温かく迎える「もてなしの心」は、人を魅了する都市空間を生み出しており、住む人のみならず、訪れる人にも潤いやゆとりを提供している。

2-2 宮川の概要

宮川は、高山市を中心とする飛騨高原を流下し、多くの支川を合流させ、富山県に入ると、神通川と名称を変える。神通川は、その源を岐阜県大野郡宮村の川上岳(1,625.9m)に発し、岐阜・富山両県を貫流して富山湾に注ぐ、流域面積2,720 km²、流路延長120 kmの一級河川である。

2-3 宮川と高山のまちづくり

歴史と伝統を生かした潤いのある町づくりは、市民活動によって支えられている。その発端は2つの小さな動きから始まった。

1つは、昭和38年に汚れがひどくなった宮川をきれいにしようという子供会の提案である。それを機に、市民による河川美化活動が始まって、現在も引き継がれ、市民憲章にも謳われている。

もう一つは、ほぼ同時期に、日本でも一番早い町並保存運動により、後に重要伝統的建造物群保存地区に指定された古い町並みは、現在も市民の手で保存活動がなされている。



重要伝統的建造物群保存地区 (上三之町) の町並み

しかし、平成8年にこの重要伝統的建造物群保存地区の火災が発生し、水路が網の目状に張り巡らされ、宮川に近いにも係わらず濁水時の消防水の確保が問題となった。

また、市民の河川美化の活動が継続的に実施され、下水道整備も進み水質が徐々に改善されているにも係わらず、子供が安心して泳げるまでの水質や水量に至っていない。

さらに、一昨年(平成11年)の6月に飛騨地方を襲った豪雨は、市民が初めて経験する大水で、市街地の一部が狭窄で、町づくりと一体となった治水計画を緊急に取り組む必要性がでてきた。

3. 市民グループの提案

平成9年に市民グループのプロポーザルから、本基本構想に取り組むきっかけとなった。水循環を基調とするまちづくりを提案したもので、以下にその趣旨を示す。

宮川は飛騨びとの原風景
限りある高山の自然環境の中でも
貴重な河川空間を次の世代に引き継ぐために
私たちは今何をすべきか。

市民の市民による市民のための
《水と緑の水路》を軸とした街

清流を引き込み、中水を循環させて、防火や
克雪のために利する、親しみ合う水辺を創る
さらに樹木など生き物に必要な水を保つこと

市民とくみず環境の関わり合い方

水のもつ価値観の変革を求め

3. 宮川水辺空間再生計画の策定について

3-1 委員会

基本構想策定にあたり、様々な立場の人々から幅広い意見を聞き、地域に密着した計画とするために検討委員会を設置した。岐阜大学地域科学部宮城俊彦教授を委員長に、市民活動団体中心に行政機関など総勢16名で、平成12年3月から翌年2月まで4回の委員会を開催し検討した。以下にメンバーの所属を示す。

宮川水辺空間再生検討委員会

- ・岐阜大学
- ・うるおいのある宮川推進会議
- ・宮川を美しくする会
- ・高山岳城ライオンズクラブ
- ・高山市青年会議所
- ・高山市景観町並保存連合会
- ・高山市まちづくり住まいづくり研究会
- ・地域自然科学研究所
- ・宮川漁業協同組合
- ・高山市
- ・岐阜県基盤整備部河川課
- ・飛騨地域振興局振興課
- ・飛騨地域振興局環境課
- ・飛騨地域保健所
- ・高山建設事務所

3-2 宮川水辺空間の役割と課題の整理

宮川水辺空間の現状を把握し、さらに、委員を対象にアンケート及びヒアリング調査の結果から、水辺の役割と課題を下記のとおり整理した。

水辺の役割・課題

治水計画の立案
消防水の確保
非常時の生活用水の確保
消流雪の改善
水質の改善
自然環境の回復
自然のふれられる場の創出
歴史的街並みの保全
伝統行事・水文化の継承
水が介した人々の交流
自然を学ぶ(環境教育)の実践
市民活動の支援

3-3 基本理念

宮川を軸とした歴史ある水辺空間は、高山の貴重な財産で、本基本構想は、水辺空間をまちづくりに活かすための基本的な方向性を示すもので、歴史と潤いのある水を軸とした高山を目指し、次のテーマと6つの基本理念を掲げた。

テーマ:

“山都の歴史と文化を支える清流宮川の保全と再生”
～水を軸としたまちづくりにむけて～

《基本理念》

- 歴史と文化を育む水辺空間の継承
- 自然環境の回復
- 水辺空間を楽しむ
- 清流宮川の復活
- 安心・安全な水辺をつくる
- 上下流との連携・交流

3-4 基本構想の方針

基本理念に基づき、以下に示す方針とした。

《基本方針》

■歴史と文化を育む水辺の保全

- ①歴史ある宮川の水辺空間の保全
- ②伝統行事を継続していく場の保全
- ③生活と関わってきた水文化の保全と復活

■自然環境の回復

- ①瀬と淵の保全と創出
- ②上下流の連続性の確保
- ③まとまった自然地の保全と創出

■水辺空間を楽しむ

- ①水辺のネットワークの形成
- ②自然を体感できる川をつくる
- ③水辺を楽しむ空間づくり
- ④川側を表とする整備の支援
- ⑤情報の受発信

■清流宮川の復活

- ①川の自然浄化機能の促進
- ②水質改善への意識啓発

■安心・安全な水辺をつくる

- ①総合的な治水対策の立案
- ②地域と一体となった防災機能の充実

■上下流との連携・交流

- ①上下流の連携・交流の推進
- ②積極的な市民参加を促す

3-5 ゾーニング計画

検討した範囲は、大八賀川合流点から若宮橋付近の約6km区間周辺で、対象範囲の水辺空間は、その特徴から次の3つのゾーンに区分した。

ゾーニング計画

	親水整備ゾーン	歴史・文化ゾーン	自然とのふれあいゾーン
ゾーンの 特徴	親水公園整備実施済みの空間(宮川緑地公園、環境整備事業)	鍛冶橋～枅形橋までの古い町並に隣接し、歴史ある水辺が残っている空間	植生護岸が施された緑豊かな空間。水辺を利用するための整備は、行われていない
基本方針	防災機能を持つ親水公園として、既存施設をフォローアップ	水辺の歴史と文化を重視した風情ある川づくり	まとまった自然地の創出と自然に親しむ水辺空間づくり
範囲	大八賀川合流部～鍛冶橋	鍛冶橋～枅形橋	枅形橋～若宮橋

3-6 整備メニューの具体例

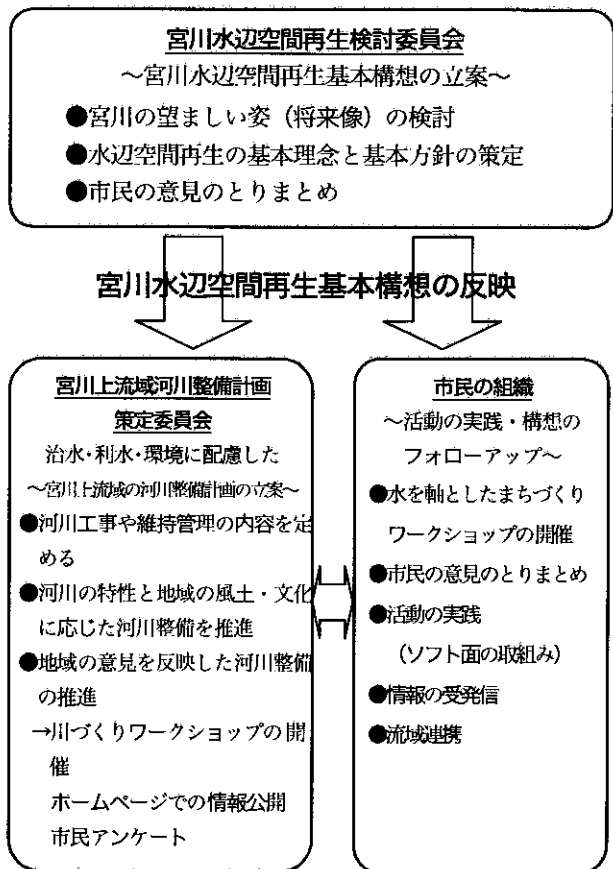
各基本方針について、現状をまとめ、整備計画の考え方を述べ、整備メニューの例を表し、それをまとめて、図-1に示すように「水辺空間を楽しむ」イメージとし取りまとめた。

また、図-2～4にゾーン毎の整備イメージを取りまとめた。

4. 今後の展開について

本構想で示した宮川の望ましい姿を実現していくためには、市民、民間企業、学識者、市、県等が連携・協力し、地域全体で水辺空間再生について考え、実践していかなければならない。そのためには、市民活動の基盤となる組織をつくり、行政機関とのパートナーシップを構築する必要がある。

また、河川整備計画が、一部下流域で立案されいるが、本構想で示した区域から上流域についても、早急に立案する必要がある。その立案にあたっては治水・利水に加え、歴史・文化・観光、自然環境、まちづくり等の様々な視点が必要となり、市民と行政が連携し、本基本構想の基本理念を反映した河川整備計画を策定される予定である。



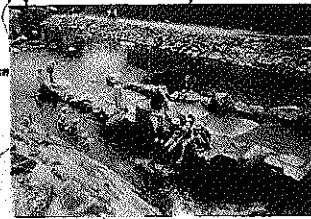
水辺空間を楽しむイメージ



ワンドであそぶ子供たち (京都市 鴨川)



高水敷の遊歩道 余格高部分に高木が植栽されている (京都市 鴨川)



川であそぶ子供たち



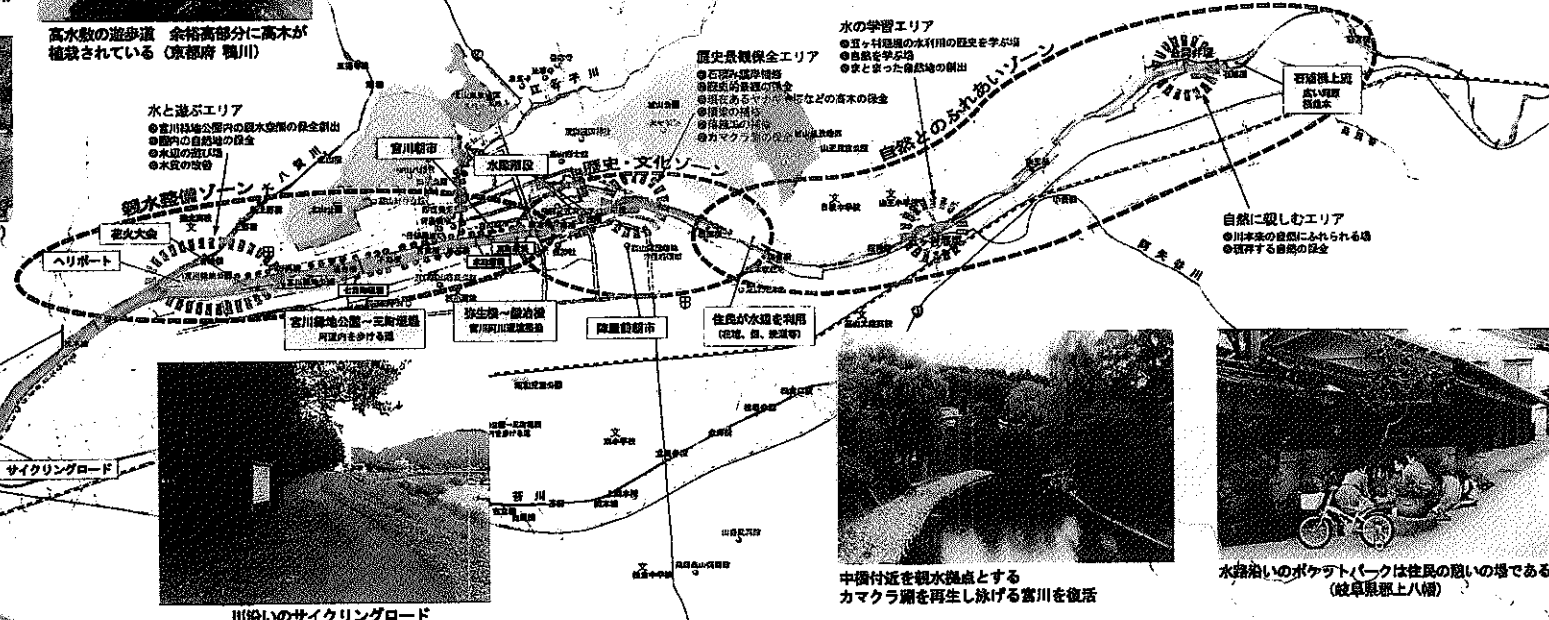
現在の高木や砂洲を保全した公園整備を行う



合向井堰付近



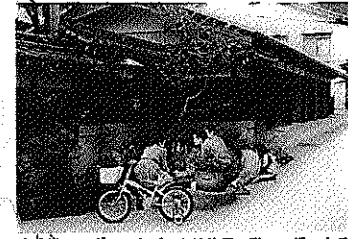
富川で憩う観光客 (写真提供・高山市)



川沿いのサイクリングロード



中橋付近を親水拠点とするカマクラ淵を再生し泳げる富川を復活



水沿いのポケットパークは住民の憩いの場である (岐阜県郡上八幡)

- ### 親水整備ゾーン
- 花火大会等が可能な親水エリアの整備
 - 隣接する児童公園等と一体となった整備
 - トイレやベンチ等の整備
 - 水辺へのアプローチの確保
 - 町中の水路空間の整備
 - 案内板の設置
 - 水に親しむイベントの開催

- ### 歴史・文化ゾーン
- 中橋付近の親水エリア整備 (かまくら淵の再生と水辺へのアプローチの確保)
 - 川沿いのポケットパークの整備 (水際階段の設置)
 - 川側を緑にする整備への支援
 - 案内板、説明板の設置
 - 水路沿いの親水空間の整備

- ### 自然とのふれあいゾーン
- 五ヶ村隠岐・合向井堰付近を、自然にふれられる親水エリアとする
 - 川沿いの遊歩道の整備
 - 泳げる淵の再生
 - 水辺へのアプローチの確保
 - 川で遊ぶイベントの開催

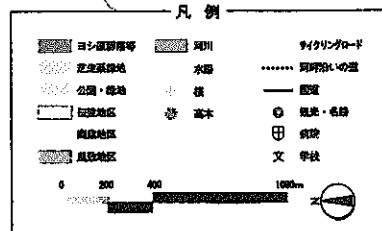


図-1 水辺空間を楽しむイメージ

親水整備ゾーンのイメージ

基本方針：防災機能をもち親水公園として既存施設をフォローアップする

歴史と文化の継承

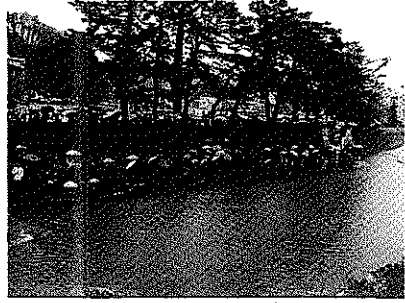
白線渡しを行える場の整備

自然環境の保全

- ・自然池やワンドの保全
- ・小中学校に水路を使ったピオトープづくり



松ノ木遊園地と一体となった緑豊かな官川



白線渡し場の保全

自然保存エリア

- ◎ヨシ群落・ヤナギ類の低木、河原林等の自然地の保全
- ◎鳥獣、魚類等の生活の場の確保

水と遊ぶエリア

- ◎富川緑地公園内の親水空間の保全創出
- ◎園内の自然地の保全
- ◎水質の改善



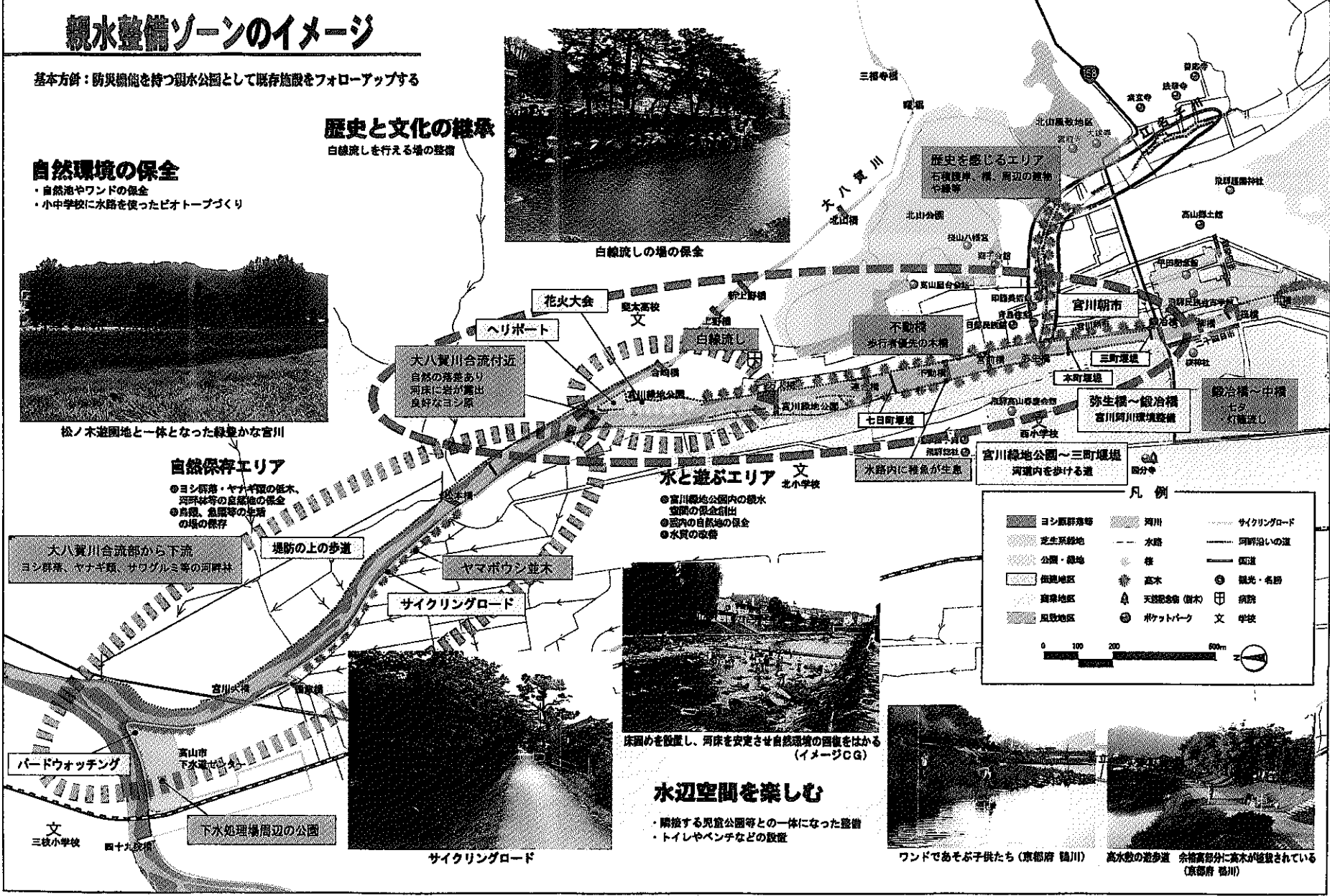
床固めを設置し、河床を安定させ自然環境の回復をはかる(イメージCG)

水辺空間を楽しむ

- ・隣接する児童公園等との一体になった整備
- ・トイレやベンチなどの設置



ワンドであそぶ子供たち(京都市 鶴川) 高水敷の遊歩道 余裕部分に高木が植栽されている(京都市 鶴川)



凡例

ヨシ群落等	河川	サイクリングロード
芝生系緑地	水路	河原沿いの道
公園・緑地	橋	国道
低地地区	高木	観光・名所
高水敷地区	天然記念物(樹木)	病院
風致地区	ポケットパーク	文 学校

0 100 200 500m

図-2 親水整備ゾーンのイメージ

歴史・文化ゾーンのイメージ

基本方針：水辺の歴史と文化を重視した風情ある川づくり

歴史と文化の継承

- ・乱雑な河岸の修景
- ・七夕まつり、灯籠流しの継承及び行事を行える場の保全



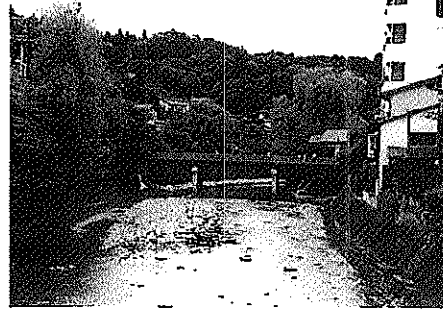
後橋上流の石張河岸 高山らしい風情を感じる空間である



七夕まつり 水辺の文化の継承

自然環境の保全

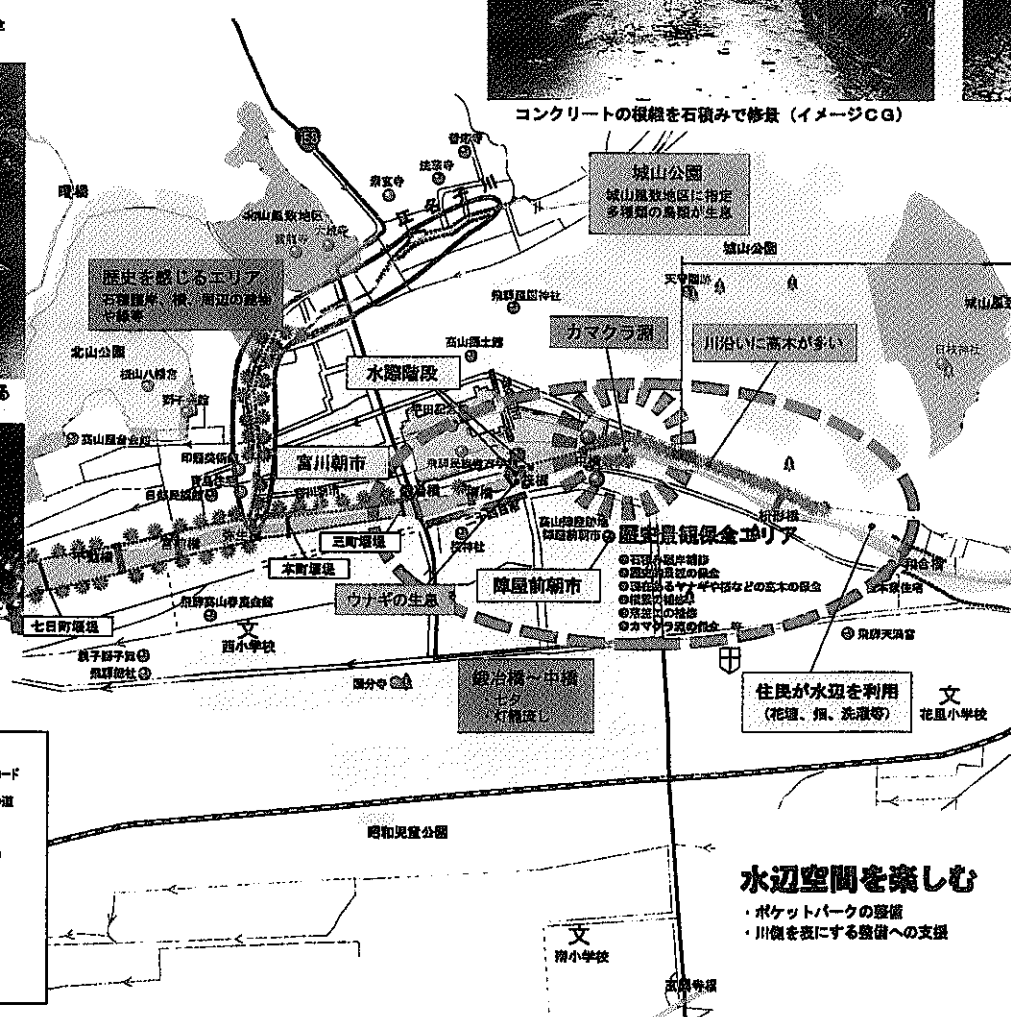
- ・扇辺の高木の保全とカマクラ淵の再生
- ・木工沈床等による水辺部の整備



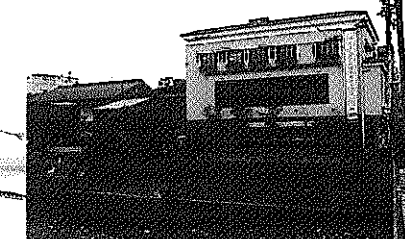
コンクリートの根柢を石積みで修景 (イメージCG)



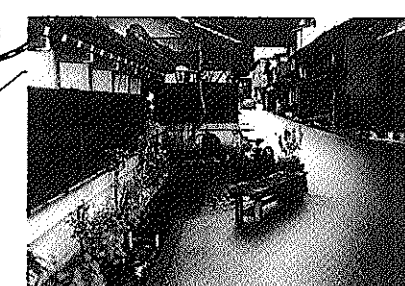
再生が重まれる中橋上流のカマクラ淵



桁形橋～石浦橋
芝生系の植生護岸と木工沈床
一部花壇や畑として利用されている



川側を表にした建物



水辺沿いのポケットパークは住民の憩いの場である (岐阜県 郡上八幡)

水辺空間を楽しむ

- ・ポケットパークの整備
- ・川側を表にする整備への支援

図-3 歴史・文化ゾーンのイメージ

自然とのふれあいゾーンのイメージ

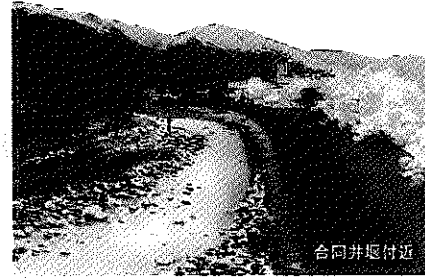
基本方針：まとまった自然地の創出と自然に親しむ水辺空間づくり



多様な環境を形成する
ヤナギと礫石



五ヶ村堤防付近



合阿井堰付近

現在の高木や砂洲を保全した公園整備を行う

- 自然環境の保全**
- 河畔林の保全、川沿いの樹木の植栽
 - 自然を学ぶ場の創出
- 水辺空間を楽しむ**
- 人が立ち入らない自然地の創出

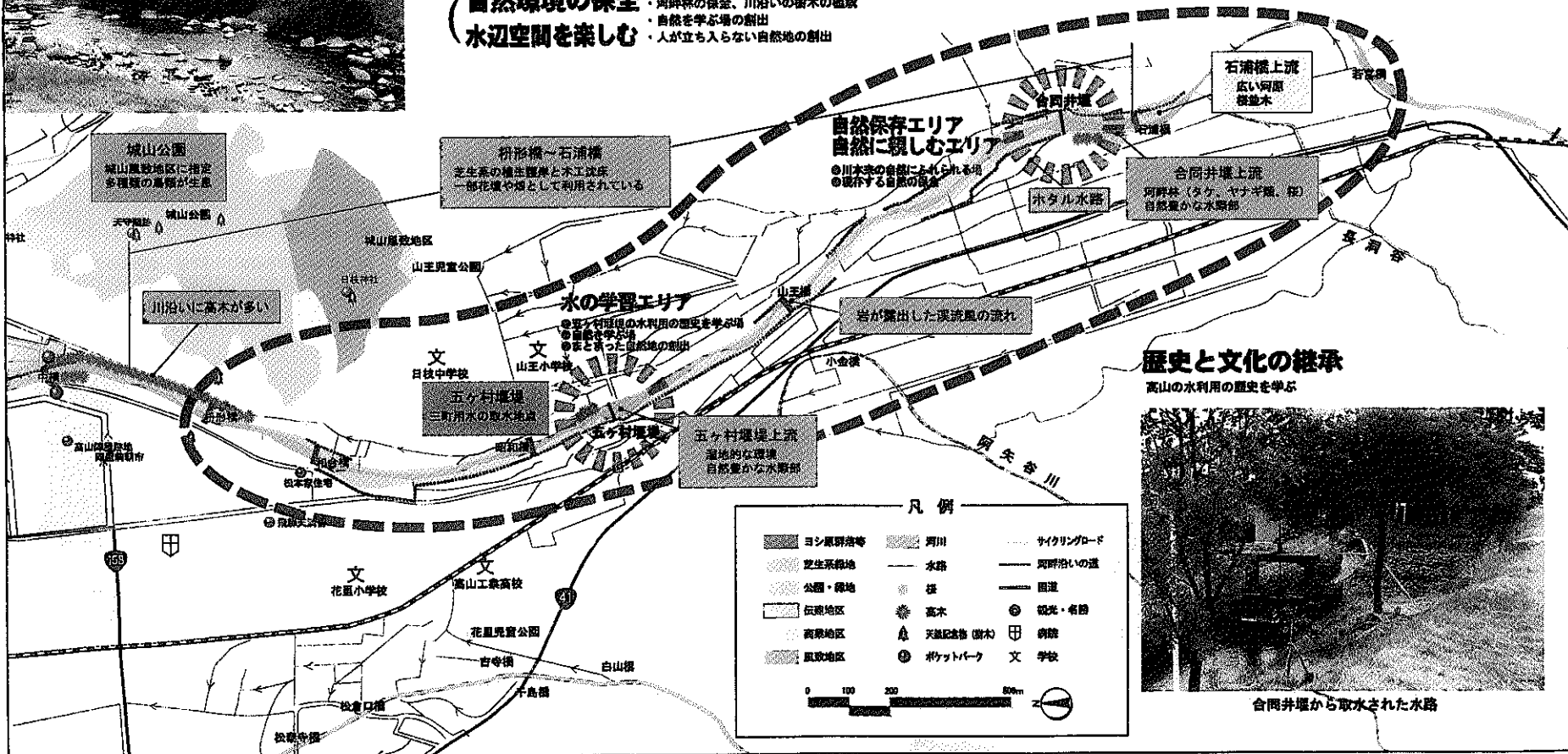


図-4 自然とのふれあいゾーンのイメージ

5. まとめ

基本構想をまとめる上で、委員会での議論が白熱し、紆余曲折しながらまとめることができた。

「市民は勝手だ。これまでは、行政が全て決めてきたが、これからは、市民が考え、市民が自ら決め、市民自ら行動する。」と言う市民活動されている委員の意見があり、具体的な整備メニューをイメージできるようにし、行動計画、役割などは、今後市民と共に考えていくこととした。

また、今後予定されている河川整備計画策定に向けて、行政主導での宮川を考える組織の仕組みづくりを検討し議論したが、市民の主体性・自主的な活動を待つこととした。

高山市において市民活動のポテンシャルが非常に高いことがわかり、愛着と誇りを持った市民が危機感や問題意識をもち、自ら考え、何かの発端で宮川や高山の新たな再生運動に繋がる予感がする。

今回、基本構想書を市民に公表するため、全文・概要書・パンフレットの3種類作成した。

市民が理解でき、共有認識がもてるよう宮川の望ましい姿をイメージできるわかり易い構想書を作成できたことが、一番有意義であった。写真や地図・イメージ図・事例などを数多く取り入れ、構想書全文55ページの内7割以上用い、わかり易いと委員の大勢からお褒めの言葉を多く頂いた。

反省点は、委員をはじめとする市民団体の意見を取り入れたが、時間的制約もあり、市民レベルの意見は十分取り入れられなかったことである。

6. おわりに

今回の基本構想を策定する最中に、偶然か2つの宮川を考えるシンポジウムが高山市内で開催さ、委員の方がパネリストとして参加され、多く市民と共に議論された。

1つは、市民グループらが主催による「水のシンポジウム2000」で、3章で記述した趣旨で、宮川の水循環の提言が出された。下水処理水の再利用や、市民の憩いの場としての「水の駅」整備など「飛騨高山地域水圏構想」の提言が行われ、川と生活の関わりを考えた。

もう1つは「第3回宮川サミット in 高山」で、全国に50ある宮川を通して、河川文化・河川環境・森林環境を民・官・学が一体となって考える場を持つことで協働による地域づくりの一助になり、河川という切り口から地域交流活性化の輪を広げていくことなど目指し、議論された。

このような市民グループの提案、シンポジウム開催などの市民活動の活発な動きは、市民が行政を動かしていく良い事例となった。

また、昨年の東海豪雨や一昨年の飛騨を襲った豪雨など沿川住民に恐怖を与え、治水に対する市民の関心度が非常に高まっている。

その中で、幸いなことに高山では、委員の有志が中心となってまちづくりを考える市民組織を立ち上げようとしており、その中で、宮川水辺空間についてより具体的に、この構想書をもとに議論され、高山市の発展に繋がっていけばと期待する。

最後に、本構想書の作成にあたりご指導、ご助言を頂きました、委員長の高山大学宮城俊彦教授、各委員、岐阜県高山建設事務所の関係各位に対して、深く感謝申し上げます。

<参考文献>

- 1) 普請研究 No.14 飛騨の匠 高山市長 歴史の町づくり 1985.12
- 2) 高山岳城ライオンズクラブのプロポーザル
ー地域社会への新たな試みー 1997